

職業訓練校入校 高卒程度 国語コース

1. コースの目的

職業訓練校の選抜試験科目（高校卒業者対象）の国語と面接に対応する内容を学習することで、選抜試験への適切な対策を目指す

2. 学習内容

「国語」の選考テストの中でも、よく出題される「漢字」と「長文読解問題」に焦点を当てて学習する。漢字は、日本の小中学校で学習する漢字、約 1800 字について熟語 5600 字と、長文読解問題は、読解の基礎となる語彙・フレーズ等を学習する。また、選考時に実施される「面接」でのやりとりについても学習する

3. 主な対象者

日本語レベルが初級修了以上で、中国で中卒相当以上の識字力のある人

4. 学習期間

12 ヶ月まで（期間内に修了しなかった場合は継続申請が可能）

5. 使用教材

「漢字を覚えよう 上・下」

「読解の基礎 上・下」、補助教材：「練習プリント」、「例文翻訳集」

「面接のやりとり（CD付き）」

6. 学習プログラム概略

以下12ヶ月の場合だが、受講者のペースで進める

12カ月	漢字	読解	面接	提出物
1~3 ヶ月目	第1回送付物：受講案内 テキスト「漢字をおぼえよう(上)」「読解の基礎(上)」、読解練習プリント① 第1回課題：漢字(1~16課)、読解(I. 副詞的表現)			
	「漢字を覚えよう上」 1~16課	「読解の基礎 上」 I. 副詞的表現		→★第1回課題： 漢字(1~16課) 読解(I. 副詞的表現)
4~6 ヶ月目	第2回送付物：テキスト「面接のやりとり」、読解例文翻訳集①、読解練習プリント② 第2回課題：漢字(17~32課)、読解(II. 接続詞的表現)、面接第1回課題			
	「漢字を覚えよう上」 17~32課	「読解の基礎 上」 II. 接続詞的表現	「面接のやりとり」 1課：自分や家族の状況 2課：経歴	→★第2回課題： 漢字(17~32課) 読解(II. 接続詞的表現) 面接第1回課題
7~9 ヶ月目	第3回送付物：テキスト「漢字をおぼえよう(下)」「読解の基礎(下)」、読解例文翻訳集②、読解練習プリント③ 第3回課題：漢字(33~48課)、読解(III. 文の構造)、面接第2回課題			
	「漢字を覚えよう下」 33~48課	「読解の基礎 下」 III. 文の構造(修飾関係)	「面接のやりとり」 3課：日本語学習歴 4課：学習の動機 5課：厳しい質問	→★第3回課題： 漢字(33~48課) 読解(III. 文の構造) 面接第2回課題
10~12 ヶ月目	第4回送付物：読解例文翻訳集③、読解練習プリント④ 第4回課題：漢字(49~61課)、読解(IV. 内容の把握)			
	「漢字を覚えよう下」 49~61課	「読解の基礎 下」 IV. 内容の把握		→★第4回課題： 漢字(49~61課) 読解(IV. 内容の把握)
	読解例文翻訳集④、修了証送付			

7. このコースのスクーリングの目的

《職業訓練校入校を希望する受講者に対して》

- ①受験指導的な相談を行う…まず、受験の時期や試験科目を確認の上、学習プログラム(どの教材をどの順番で等)の検討や学習スケジュール作りを行う。必要に応じて受験に関する情報を提供する
- ②面接対策はスクーリングで完璧に…職業訓練校入校テストの可否のポイントとして、面接試験でのやりとりの比重が大きい。面接のノウハウをスクーリングで重点的に指導する
- ③漢字・読解は試験対策としての学習を中心に…特有の出題形式、解答の仕方、解答時の注意点を指導する
 - ・漢字：筆記試験で正解となるためのポイント(漢字も平仮名も正確さを問われること、略字・簡体字なども認められないこと等)と、試験の問題・解答形式に慣れるよう設問に対する解答の仕方も指導する
 - ・読解：わからないところと一緒に読み解く作業に加えて、筆記テストでよく出る問題形式について、また、記述式の問題の効率的な解答(作文)方法(問題文の文型に沿って答える等)について指導する

《職業訓練校を目指さない受講者に対して》

漢字学習については「漢字学習コース」の資料を、読解学習については「読解の基礎コース」の資料を参照。「面接」についてはニーズは低いと思われるので、受講者と相談の上、(日常会話でも聞かれる部分に絞る等) スクーリングでの扱いを検討する

8. このコースのスクーリングの留意点

- ・試験日までの期間にどこに重点をおいて学習するか、受講者と相談の上できちんと計画を立てる。そして、苦手な部分を確認し、弱点補強を行う
- ・複数でスクーリングを行うときは、お互いに情報交換し、情報の共有化を図る

9. スクーリングの流れと活動例 (およそ2時間で計画する際、以下の活動例から取捨選択する)

★以下の例は職業訓練校受験を希望する受講者に対して行うプログラム例。受験を希望しない受講者については、それぞれ「漢字学習コース」「読解の基礎コース」のプログラムに基づいてスクーリングの流れや活動を計画する。

①オリエンテーション(初回のみ)：スクーリングの役割(自学自習を補うもの)、頻度、受講者が複数の場合は自己紹介、(必要に応じて)教材の使い方、遠隔学習の方法について確認

②直接指導

- a. 学習相談-1(受験予定や現在の学習進度、困難点などの状況把握を軽く行う)
- b. 課題添削終了者には、添削課題を持参してもらい結果へのアドバイスを行う
→結果に対する評価(努力の成果を認める方向で)や間違った箇所の確認、注意点(試験で正解となるポイントや問題・解答形式等)に対する意識化
- c. 課題未提出の場合、学習した範囲の定着度をチェックする
- d. 学習内容に関する質問受け
- e. 面接のやりとり練習 ※面接試験の準備としては対面式の模擬練習が有効である。単に日本語面の指導だけでなく、面接試験に適切な答え方(例：積極的な印象を与える答え方等)や態度(マナー・表情・アイコンタクトなど非言語面も含む)も指導する
- f. 学習相談-2(学習方法へのアドバイス、長期的な学習計画を立てたり(→個人の状況により、センターのプログラムを変更することも可能)調整したりする、次回のスクーリングの時間に何をするかを決める、次回までに自宅で何を勉強してくるか目標を定める)

オプションg. 「漢字を覚えよう」のコラムの解説(必要に応じて)

オプションh. 「読解の基礎」の学習範囲のポイントとなる例文の解説を行う

(必要に応じて。例文について日本語でQ&Aをしたり、似たような例文を挙げたりすることで意味を把握する)

オプションi. 必要に応じて、応募提出書類の記入について解説・指導を行う

③間接指導(自習)

以下は、講師が他の受講者に対応している間に、受講者が行う課題の例

[漢字を覚えよう]

a. 受講者が教材を使って行う課題

- ・各課にある太字の漢字語彙カードや「自己チェック」問題をやってみた結果、未定着な部分のみの単語カードを作る
→漢字の読みと書き練習に利用するカード(表：日本の漢字、裏：読み仮名、中国語)
→語彙として覚えるためのカード(表：日本の漢字と読み仮名、裏：中国語)

→中国と日本では字体の違う漢字カード（表：中国の漢字、裏：日本の漢字）

- ・テキストの「自己チェック問題」を再度やってみる
- ・提出課題の「まとめの問題」が終わっていない場合は学習した範囲の問題を記入する
- b. 講師が教材から作る課題
 - ・「まとめの問題」集ごとの定着度チェック問題の作成：「まとめの問題」が返却されている者に対しては、そこから抜粋した問題を作り（主に問題の「一」「二」より）定着度のチェックを行う。余裕のありそうな者に対しては「三」「四」からの抜粋問題も実施。（当コース資料④）参照
 - ・受講者のウィークポイント問題の作成：今回までの学習範囲の未定着項目をチェックしておき、次回までにその部分の問題を作成しておく
 - ・受講者が受験する職業訓練校で過去に出題されたテスト問題が入手できれば入手し、テスト形式を見たり、模擬試験としてやってもらったりする（コース終了間近で実施）

[読解の基礎]

- a. 受講者が教材を使って行う課題
 - ・語彙カードを作る（裏面に中国語訳をつける）
 - ・文中の例文でカードを作る（裏面に中国語訳をつける）
 - ・「例文翻訳集」から和文中訳問題を作成する
 - ・練習問題で間違った問題をノートに写し、ウィークポイントの問題を再構成する
- b. 講師が教材から作る課題
 - ・学習した範囲の例文の中から和文中訳問題や読みとり問題を作成する
 - ・学習した範囲の練習問題から間違った箇所を抜粋して、チェック用の問題を作成する
 - ・「例文翻訳集」から和文中訳の練習問題を作成する

[面接のやりとり]

- a. 受講者が教材を使って行う課題
 - ・CDを聞いて、テキストを見ないで意味をとったり、後について発話練習をしたりする
 - ・練習にある面接官の問いを見て自分の答えを言ってみる、書いてみる
 - ・質問のバリエーションを読んで中国語訳を確認する
 - ・会話の中国語訳を見て答えの部分日本語で言ってみる、書いてみる
- b. 講師が教材から作る課題
 - ・面接官の問いに対する回答部分（日本文）を空白にしたものを作成し、CDのやりとりを聴かせて聞き取ったものを記入させたり、中訳を日本語に直させたり、受講者自身の答えを記入させたりする
 - ・面接の際のキーワードとなるような「単語・表現」の定着を図るために、キーワード部分の日本語部分を“虫食い”（中文付き）にした小テストを作成する
 - ・本文のポイントとなる文型を取り出し、その文型を使って作文をさせる
 - ・（余裕のある学習者には）テキストにはないが、面接で質問を受けそうな想定問題を作って答えを考えさせたり、書かせたりする

10. スクーリング実施状況報告から 活動事例など

- ・漢字については「漢字学習」コースを参照
- ・読解については「読解の基礎」コースを参照
- ・面接については「職訓校中卒程度 国語」コースを参照
- ・進路指導については「職訓校中卒程度 国語」コースを参照

◆*◆*◆ 資料 ◆*◆*◆

1. 「漢字を覚えよう 下」テキスト抜粋および提出課題添削例（「漢字学習」コースを参照）
2. 「読解の基礎 上」テキストおよび提出課題添削例（「読解の基礎」コースを参照）
3. 「面接のやりとり」テキストおよび提出課題添削例（「職訓校中卒程度 国語」コースを参照）